

前回の続き

気候変動説

- ・ LHHIIB2 期末の気候変動
- ・ 農業に打撃
- ・ 文明の衰退
- ・ ハンティントンらの多数説
- ・ 急激な温暖化と乾燥化
- ・ ハンガリー平野での洪水、カスピ海の水
- ・ 位上昇、アルプスや北欧での氷河の後退、
- ・ 炭素 14 の減少=太陽活動の活発化
- ・ ↓
- ・ 地球規模での温暖化→亜熱帯高気圧帯が地中海上空に張り出す
- ・ ↓
- ・ 地中海における暑く乾燥した長い夏
- ・ ポーラーフロント、ハンガリー上空に停滞
- ・ ↓
- ・ 地中海における降雨量の著しい減少
- ・ 安田喜憲説
- ・ 急激な寒冷化と湿潤化
- ・ オランダで採取された酸素 18 の変動
- ・ シリアやトルコ、ギリシアにおける花粉
- ・ ブナの花粉の増加：寒冷な気候を好む
- ・ 柳や水生植物の増加：
- ・ 湿潤な気候を好む
- ・ 長雨による傾斜地から土壌流失
- ・ 貧栄養の赤色土壌の露出
- ・ ↓
- ・ 麦作の減少、オリーブの増加
- ・ 問題点
- ・ 大規模な気候変動を示す証拠はない
- ・ ギリシアを含むエーゲ海域での酸素 18 のデータがない
- ・ 土壌流失は生じていない
- ・ ティリンスの例は土地利用の失敗

地震説

- ・ LHHIIB2 期末期にギリシアから小アジアに及ぶ極めて広範囲な地域でマグニチュード 4 以上の地震の群発
- ・ ↓
- ・ 宮殿の建物の破壊
- ・ シリアのラスシャムラのイメージ先行
- ・ Drews の批判
- ・ 地震で破壊された文明はない
- ・ Iakovides や Kilian
- ・ 宮殿の破壊は認めても、文明の崩壊は認めていない
- ・ 周藤芳幸
- ・ van Andel と Zangger の研究に依存
- ・ アルゴリス平野、特にティリンス周辺で大規模な土壌流失・平野部や沼沢地に土壌堆積

- ・ 問題点
- ・ 一地方の現象を論じているだけ

#### 突然死説の問題点

- ・ 破壊と断絶面が強調されるばかりで、LHIIIB2 から LHIIIC にかけての文化の連続的側面と LHIIIC 期の文化の発展を説明できていない
- ・ 例
- ・ ミケーネの礼拝室など
- ・ LHIIIB2 末の破壊の直後に再建
- ・ ティリンス
- ・ LHIIIC 期に水路の付け替え
- ・ ↓
- ・ 河川の水路変更
- ・ ナウエ 2 型の剣、蝟の絵の入った壺（マリンスタイル）、手作りの黒色磨研土器、贅沢品の消滅
- ・ LHIIIB2 期に既に現れている
- ・ ミケーネの油商人の家
- ・ LHIIIB2 期に再建されず放棄
- ・ ピュロスの宮殿
- ・ LHIIIB1 期末の破壊
- ・ LHIIIB2 期の再建
- ・ 未加工の石材の使用、壁面に木枠の未使用、泥による床面
- ・ ↓
- ・ 宮殿の資金力と技術力の低下
- ・ 全ての遺跡が破壊されたわけではない
- ・ アッティカには破壊の痕跡はない
- ・ ↓
- ・ 文明の破壊ではなく、文明の移行